



しもつけ文化財探訪

第19回 上野原古墳群

今月の文化財探訪は、^{やじっか}谷地賀（南河内地区）に所在する、^{うえのはらこぶんぐん}上野原古墳群です。上野原古墳群は、ふれあい館の西500mに位置します。かつては、12基の円墳で構成されており、現在、12号墳の発掘調査を実施しています。

12号墳は、直径30mの円墳と考えられますが、調査区の北1/2以上が上三川町に属しているため正確な規模は不明です。石室は墳丘の中心からかなり南東にはずれた場所に位置しています。石室の構造は、川原石を小口に積んだ^{たてあなしき}竪穴式で、規模は全長約2.3m、幅75cmになります。石室の北西の壁際からは^{たちばく}大刀・馬具、北西隅からは60本の^{てつぞく}鉄鏃（鉄のやじり）、東の壁際からは刀子（ナイフ）・ピンセット・砥石、南西の壁際からは^{あぶみ}鍔の金具など多くの^{ふくそうひん}副葬品が出土しました。大刀は鉄製で全長106cmに及ぶ長大なものでしたが、^{つか}柄や^{さや}鞘などの木製の部分は残っていませんでした。馬具類は全て鉄製で、^{くら}鞍（馬に座するための道具）を除く^{あぶみ}鍔（足をかける道具）・^{たづな}轡（馬にくわえさせて手綱をつける道具）など乗馬に必要な道具が一式揃って出土しました。鞍については木製であったため腐食して無くなったと考えられます。これらの出土品は、盗掘を受けていなかったため埋葬状態が非常に良く保たれていました。



出土した大刀



この古墳の築造時期については、出土遺物から6世紀後半と考えられます。

問い合わせ先

文化課 ☎52-1120

次回は「下野市古墳群」を探訪します。

やくしじいなりだいいせき つめがたもん 薬師寺稻荷台遺跡出土の爪形文土器が 下野薬師寺歴史館で展示中です。

今回、田中地内薬師寺稻荷台遺跡から縄文時代の^{どこう}土坑とそれに伴う爪形文土器が発見されました。爪形文土器は縄文時代^{そうそうき}草創期の今から約11,000年前頃のものと考えられます。栃木県内では大谷寺洞穴遺跡（宇都宮市）など数箇所出土例がありますが、いずれも破片での出土であることから形状等については不明となっています。



発見された爪形文土器は、直径約1.5m、深さ40cmの円形の土坑の中から出土しました。土坑の南側半分が新しい時代の溝により壊されていましたが、別の個体と考えられる爪形文土器の破片も出土していることから、複数の土器が土坑に納められていた可能性もあります。

土器の詳細については、現在復元作業の途中ではありますが、高さが20cm以上であると推定されます。

また、この土坑は爪形文土器及びその中に納められていたと考えられる石器や土坑の大きさ等から、縄文時代草創期における^{ほこう}墓墳（お墓）であると考えられます。

県内では縄文時代草創期の住居跡を含めた遺構や土器の出土例が少ないことから、今回の発見は、この頃の県内の状況を考える上で貴重な発見となりました。なお、爪形文土器は、3月末まで下野薬師寺歴史館で展示しています。

問い合わせ先

下野薬師寺歴史館 ☎47-3121